

農業の新しい技術

No. 728 (令和2年(2020年)6月)
分類コード 01-14
熊本県農林水産部

褐毛和種種雄牛「光重球磨七」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室
担当者：眞鍋由希

研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

研究の成果

1. 枝肉重量及びばらの厚さに優れた褐毛和種種雄牛「光重球磨七」を選抜した。

○血統

父 光重球磨 (繁殖 91)	祖父 重球磨(特級 91)	— 重常(1級 576)
	祖母 第五さゆり☆☆(繁殖 4482)	— 光重E T(育高 1)
母 しげいずみ☆ (繁殖 20503)	祖父 第十六光重(育高 2)	— 光重E T(育高 1)
	祖母 いずみなみ(繁殖 15641)	— 光玉波(高 80)

○登録番号：繁殖 2 1 5

○生年月日：平成 2 7 年 1 月 2 4 日

○生産地：下益城郡美里町(三浦 郁夫)

2. 現場後代検定成績および育種価

○枝肉重量は去勢 591.4kg、雌 516.1kg、平均 536.2 kgと大きく、いずれも歴代最高の成績であり、育種価も+100.09kg(評価種雄牛 526 頭中 1 位)とずば抜けて高かった。

○ばらの厚さは去勢 8.8 cm、雌 7.8 cmと厚く、去勢は歴代最高の成績であり、育種価も+0.76 cm(評価種雄牛 526 頭中 14 位)と極めて高かった。

○S B Vは枝肉重量 4.96、脂肪交雑 1.23、ロース芯面積 1.93、バラの厚さ 2.29、皮下脂肪の厚さ-1.42 であり、特に枝肉重量とばらの厚さの改良効果が大きいと推定される。

※S B V(標準化育種価)とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするために、各形質の育種価を同一スケール上で比べられるようにしたもの。値が+1 以上の場合、改良効果が高いことを示す。

3. 特徴

本牛は産肉能力に優れた「しげいずみ☆」に「光重球磨」を交配し作出された。枝肉重量では去勢、雌、全体平均のいずれにおいても歴代最高の成績を記録し、ばらの厚さにも優れていることから、特に肉量面の改良への貢献が期待される。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



光重球磨七 (みつしげくまなな)

格付け:A-3 枝重:590.2kg
 BMSNo.:4 ロース:64cm²
 ばら8.1cm 母の父:第二弦光

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMS No.)	ロース 芯面積 (cm ²)	バラの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	日齢枝肉 重量 (g)
去勢	4	591.4	4.50	65.8	8.8	4.1	778.9
雌	11	516.1	3.82	58.5	7.8	3.9	667.9
全体	15	536.2	4.00	60.4	8.0	3.9	697.5

表2 育種価(BV) (R2.2月評価)

	順位	育種価 (正確度)	
枝肉重量	1	100.086	0.87
脂肪交雑	69	1.540	0.90
ロース芯面積	20	7.377	0.86
ばらの厚さ	14	0.761	0.86
皮下脂肪の厚さ	482	0.575	0.89
日齢枝肉重量	1	131.434	0.87

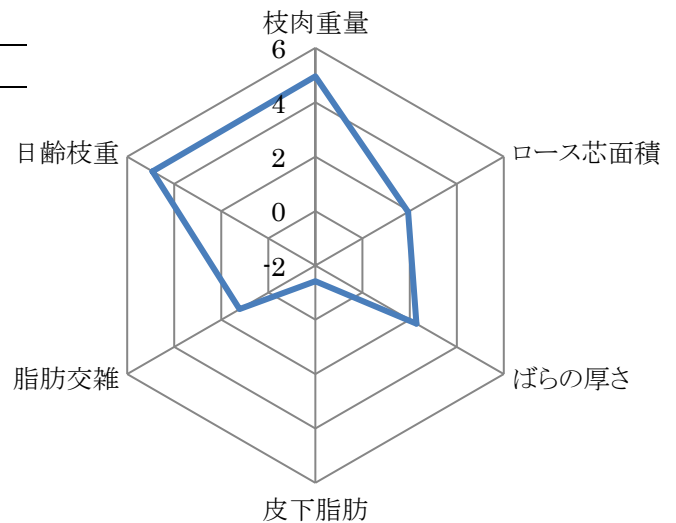


図1 SBV (標準化育種価)

※ 産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるように処理したもの
 ※ 皮下脂肪は逆符号

※ 後代頭数17頭(フィールド成績を含む)

※ 順位は評価種雄牛526頭中の順位